

学校評価の手引き

(平成14年度末学校評価に向けて)

平成15年2月

新潟県教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	学校評価の目的	1
3	学校評価の対象	2
4	平成14年度末学校評価の手順	
(1)	今年度目指してきたことの確認	3
(2)	評価項目の決定	3
(3)	評価基準の設定	4
(4)	評価を行うためのデータの収集	6
(5)	評価の実施	7
5	学校評価の結果の公表	
(1)	公表の目的	8
(2)	公表の方法と意見聴取	8
6	次年度へ向けた改善計画の作成	9
7	おわりに	10
○	「学校の評価システムの確立に関する調査研究」協力者会議委員名簿	11
○	資料	
	・新潟市立真砂小学校学校評価計画	13
	・柏崎市立第一中学校学校評価計画	18
	・新潟県立新発田高等学校評価計画	23

1 はじめに

学校設置基準に「学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するように努める」ことが規定された。これは義務規定ではないが、すべての学校が実施に向けて努力すべきことを規定したものであり、特別の事情がない限り、学校としての自己点検・自己評価（以下、学校評価という。）を行い、その結果について公表すべきものと考え。

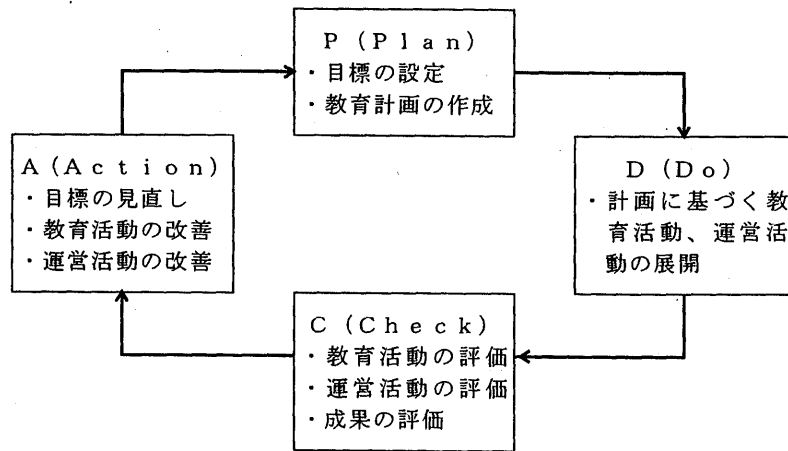
各学校では、設置基準に規定されたからやらなければならないという受け身の姿勢ではなく、むしろ、学校の努力を積極的に広報できるよい機会を得たと前向きに受け止めて学校評価を実施してほしい。

県教育委員会では、「学校の評価システムの確立に関する調査研究協力者会議」において、今後の学校評価の在り方について検討してきた。本冊子は、その中間のまとめとして作成したものである。各学校においては、本冊子を参考に今年度末の学校評価を実施し、その結果を外部に公表していただきたい。

2 学校評価の目的

学校評価は、1年間の学校の取組を振り返り、自校のよさや特色、児童生徒の成長等を確認し、より一層の充実に向けて改善の方向を明確にするために実施するものである。また、評価結果を外部に公表し、保護者や地域の人々に、教職員の努力、児童生徒の成長等を理解してもらい、学校への信頼を確かなものにしてもらうとともに、改善すべき課題等を共有し、連携・協力して児童生徒の教育に当たるために実施するものである。

従来から、多くの学校で、学校運営の反省あるいは学校経営の診断チェック等の形で学校評価が実施されているが、これから実施する学校評価は、組織マネジメントの考え方を導入し、一層充実したものにしていきたい。それは、学校が組織として取り組むべき具体的な目標を明確にして計画を立て(Plan)、全教職員が一体となって目標実現に向けた活動を展開し(Do)、結果として、目標がどれだけ実現・達成できたかを誰にでも分かる形で評価し(Check)、次年度どこをどのように改善していったらよいかを明確にする(Action)ことのできる学校評価にすることである。



3 学校評価の対象

学校は、今度当初に、その年度の重点目標を定め、それに基づき具体的な努力事項や重点課題等を設定し、目標の実現や課題解決のための教育活動を計画する。また、児童生徒の教育活動を支えるための教職員の運営活動を計画する。

学校評価は、この『教育活動』と『運営活動』が目標達成に向けて適切に実施されたかどうか、また、その活動の『成果』として、児童生徒はどのように成長したかということを検証することになるので、学校評価の対象は、次の3項目となる。

- | | |
|---|-----------------------|
| ア | 『教育活動』を対象にした評価 |
| イ | 『運営活動』を対象にした評価 |
| ウ | 『成果』(児童生徒の変容)を対象にした評価 |

学校評価の対象はこの3項目であるが、ア、イは学校が行った活動をすべて対象にするわけではなく、その年度、特に重点をかけて取り組むことにした活動に絞って評価し、ウについても、重点をかけた活動の成果に絞って評価することが望ましい。

4 平成14年度末学校評価の手順

学校評価はP (Plan) の段階から始めるものであるが、時期的に年度末を迎えていることから、本冊子ではC (Check) の段階の点検・評価をどのように行うかについて、以下述べることにする。

(1) 今年度目指してきたことの確認

学校評価を実施するに当たり、今年度の学校の課題は何であったか、また課題の解決に向けて重点をおいて目指してきたことは何か、「グランドデザイン」や「教育計画」などを基に、確認する必要がある。

<例>

「確かな学力の向上」と「思いやりのある生徒の育成」を今年度の重点事項に取り上げた中学校の場合

- ① 生徒の学力や思いやりの心を育てるために、学校をあげて取り組むことにした『教育活動』は何かを確認する。この学校では、学習指導面での重点活動として、「生徒が学ぶ喜びを感じる授業」、生徒指導面での重点活動として「互いに認め合う人間関係づくり」を取り上げているが、それぞれについて具体的にどのような活動に力を入れることにしていたかを洗い出す。
- ② その『教育活動』を支えるために、特にどのような『運営活動』に力を入れることにしたかを確認する。この学校では、「習熟度別指導のための職員研修」「緑と絵と歌のあふれた環境づくり」等を取り上げているが、ここでも、それぞれについて具体的にどのような活動に力を入れることにしていたかを洗い出す。
- ③ 『教育活動』や『運営活動』の『成果』として、児童生徒にどのような変容を期待したのかを確認する。この学校では、「確かな学力の向上」では学力検査結果の数値的な向上とあわせて、アンケートによる生徒のやる気意識の向上を具体的な姿など、「思いやりのある生徒の育成」では、いじめ・不登校の減少やボランティア活動参加者の増加、アンケートによる安定した人間関係の増加などをあげているが、このような生徒の変容の具体的な姿を洗い出す。

(2) 評価項目の決定

(1)で洗い出した内容を項目として並べ、次に示す例のように整理する。この例

から分かるように、評価項目は、年度初めにどのようなことをどのくらい実施しようとしたのかを整理したものである。ただし、学校の活動の範囲は幅が広く、細かくあげればきりがないので、3でも述べたように、その年度、特に重点をかけて取り組むことにした活動に絞って取り上げることが望ましい。また、『成果』については、なるべく具体的な姿で評価できる項目にした方がよい。

<例>

ア 「確かな学力の向上」についての評価

(7) 『教育活動』の評価項目

- ① 習熟度別指導の実施
- ② 総合的学習での探究活動の実施 など

(4) 『運営活動』の評価項目

- ① 習熟度別指導のための教員研修の実施
- ② 小・中9か年カリキュラムの作成 など

(9) 『成果』の評価項目

- ① 学力テスト(NRT)の数値の向上
- ② 学習意欲(アンケート調査)の向上 など

イ 「思いやりのある生徒の育成」についての評価

(7) 『教育活動』の評価項目

- ① いじめ0スクール運動の実施
- ② ボランティア活動の実施 など

(4) 『運営活動』の評価項目

- ① 教育相談の実施
- ② PTA・地域と連携した花壇・校庭の整備 など

(9) 『成果』の評価項目

- ① いじめ・不登校の発生数の減少
- ② ストレスを感じている生徒数の減少(アンケート) など

(3) 評価基準の設定

評価項目ごとに、例えば、「達成できた(A)」「ほぼ達成できた(B)」「改善を要する(C)」のように、判定するための基準を定めておく必要がある。そのためには、達成できた状態とはどのような状態であるかを予め明らかにしておくことが重要に

なる。

例えば、「習熟度別指導の実施」の項目では、「全学年の数学、英語で各学期2単元以上実施する」や「選択5教科は年間を通して習熟度別指導で実施する」、「習熟度別指導の方がよく分かるという生徒が90%以上になるように指導を充実する」など年度当初に計画し、期待した状況をA判定の基準とする。そして、中間段階の「各学期1単元以上」や「よく分かるという生徒が60%以上」をB判定基準とし、それ以下をC判定とする。

1項目についての判定基準は、例のように複数ある場合も考えられるし、項目によっては一つで済む場合もあろう。いずれにしても、A判定の基準は、その項目の具体的な達成目標としての意味を持つことになるので、本来は年度当初に明確にしておくべきものである。今年度の学校評価に基づいて、次年度の計画を作成する際にはこのことに配慮する必要がある。

<「確かな学力の向上」についての中学校の評価基準例>

ア 『教育活動』に関する評価基準

評価項目	評価基準
◎習熟度別指導を全学年の数学、英語で、各学期2単元以上実施する。	A…全学年で、各学期2単元以上実施 B…全学年で、各学期1単元以上実施 C…全学年で、通年で2単元実施

イ 『運営活動』に関する評価基準

評価項目	評価基準
◎小・中9か年カリキュラムの完成を目指し、全学年、全教科でカリキュラムづくりを進める。	A…全学年、全教科で完成 B…第2学年で全教科完成 C…第1学年で全教科完成 D…B、Cに至らない

ウ 『成果』に関する評価基準

評価項目	評価基準
◎全学年の5教科(国、社、理、数、英)、延べ15教科で、学力テスト(NRT)の結果が前年度を上回る。	A…延べ15教科のすべてが上回る B…延べ15教科のうち7割程度が前年度の結果を上回る C…延べ15教科のうち5割程度が前年度の結果を上回る D…延べ15教科のすべてが前年度を下回る

(4) 評価を行うためのデータの収集

評価基準に基づいてA、B、Cの判定を行うためのデータを収集する。教育活動や運営活動の実施状況については、担当部会等からデータを提出してもらう必要がある。また、児童生徒や保護者等の意識も含めて参加状況がデータとして必要な場合は、アンケート等を実施する必要も出てくる。さらに、学力テスト、いじめ・不登校の発生状況、中途退学率、大学進学率等のデータも必要である。

いずれにしろ、学校評価に当たっては、個人の感覚的な受け止めでA、B、Cを判定することは、できるだけ避けるようにして、客観的な数値データに基づいて行うようにすべきである。ただし、すべての項目がきちんと数値データ化できるとは限らないので、教職員や児童生徒、保護者等がどのように受け止めているかというアンケート結果等もデータとして活用するなど工夫が必要である。

特に、児童生徒や保護者、地域の人々の意識調査等は、第三者の見方を学校評価に取り入れる意味から、是非、データとして活用したいものである。その際、学校評議員の参加・協力を得るなどの工夫も必要である。

留意すべき点は、例えば診断チェック表等を用いて教職員個々の受け止めにアンケートの形で調査し、集計結果をもってそのまま学校評価とするのではなく、それも評価のためのデータの一つとして扱うことである。

アンケートの具体例については、資料(p13 ~ p 34)に載せてあるので参照のこと。ただし、参考例であるので、各学校では、自校に最も適した内容に工夫する必要がある。

(5) 評価の実施

学校評価に当たっては、校長や教頭を含む「学校評価委員会(仮称)」を組織し、この委員会が準備を含めて学校評価を実施することが適切である。つまり、この委員会が中心になって学校評価のための計画を立て、ここまで述べてきた手順に則って項目や基準を定め、必要なデータを集めるのである。もちろん、計画等については事前に全教職員に周知し、理解を得ておく必要があることは言うまでもない。

評価項目ごとに必要なデータが収集されたら、この委員会が第1次評価を行うことになる。評価の際には、基準等の解釈の幅を巡ってブレが生じることはよくあることである。そのような際にも、あくまでも、学校として何をねらってきたのかをよく理解している教職員で構成された委員会の中で論議して、第1次評価を行うことが適切であろう。また、項目によっては、校内の分掌組織で評価を分担することも考えられるので、そのような場合は、分掌組織のキャップを委員会のメンバーにするなどの工夫も必要である。

第1次評価の結果は、全教職員に周知して、その妥当性について意見を収集する場を設け、その意見によっては再度委員会で吟味して最終的に今年度の学校評価とする。その過程においては、学校評議員や保護者代表等の意見を収集することも考えられるので、工夫してほしい。

また、単に、A、B、Cを判定するだけの評価ではなく、教職員が努力してきたことやその成果を確認し、さらには改善すべきポイントについて校長や委員会のコメントが盛り込まれた評価にするなどの工夫も必要である。

【学校評価委員会の任務】

- 1 学校評価計画の作成
 - (1) 評価項目・評価基準の設置
 - (2) 評価のためのデータの種類や数、収集方法等の決定

(3) 評価日程の作成

- 2 評価を実施するためのデータ収集
- 3 評価データに基づく第1次評価の実施
- 4 第1次評価に基づく意見収集と学校評価の確定

5 学校評価の結果の公表

(1) 公表の目的

学校評価の目的のところでも述べたように、評価の結果については、保護者や地域の人々に公表することが重要である。学校が課題解決に向けてどれだけ努力してきたか、その努力によって目標はどのくらい達成できたか、課題として何が残り、来年度どんなことに努力するのかということを外部に向かって公表することで、学校に対する理解と信頼が確かになる。

したがって、公表に当たっては、データのない判定結果だけの公表では、外部の十分な理解は得られないので、評価の裏付けとなるデータ及び判定基準も同時に示すことが重要である。また、学校として努力してきたこと、その成果が現れているところ、期待したようには現れなかったところ、その要因、改善のポイント等を説明したコメントも付して公表することが望ましい。

大切なことは、単に、目標が達成できた、できなかったという単純な評価ではなく、目標達成に向けた努力と改善意欲がよく伝わるようにすることである。

また、学校評価の結果について所管の教育委員会をはじめ学校評議員に報告し、学校の改善の現状や今後の対応等について説明する必要がある。

なお、公表に当たっては、プライバシーの保護等については十分留意することが重要であることは言うまでもないことである。

(2) 公表の方法と意見聴取

公表の方法としては、PTAの会合時、学校だより、ホームページなど多様な方法が考えられる。県内には、学校だよりを定期的に地域回覧板で公表している学校も多い。また、学校説明会に保護者だけでなく広く地域の人々も招き、一年間の学

校の取組の成果や課題を発表している学校もある。

学校評価の結果の公表をこのような様々な機会を活用して行うことにより、外に向かって開かれた学校となることができる。

また、評価結果を学校から外部に公表するだけの一方性の開かれた学校ではなく、公表された情報について外部の人々の意見を聴取できる双方向性の開かれた学校にすることも大切である。

意見聴取の方法としては、PTAや学校説明会等での直接聴取、意見箱等の設置などが考えられる。また、学校評議員を通して地域の人々の意見を把握することも大切である。

外部からの意見等は多様な立場からの多様な意見になることはやむを得ないことである。したがって、学校は謙虚な姿勢でそれらの意見に耳を傾けることは重要であるが、自校の重点目標、重点課題等に照らして主体性を持って多様な意見に対応することも必要になる。

6 次年度へ向けた改善計画の作成

学校評価の結果は、次年度のための改善計画に生かされて初めて、Plan - Do - Check - Action のサイクルはつながることになる。したがって、評価基準に基づいてA、B、Cそれぞれに判定された項目について、次年度どのように改善すべきか、その方向を検討することは学校評価の中でも、特に重要な作業となる。

改善計画の作成は、まず、『成果』についての評価の分析から行うのが通常であろう。例えば、『成果』としての学力テストの数値向上や学習意欲の向上に確かな伸びが見られたものの、まだ不十分な点も見られたとしたら、不十分になった要因は何かを検討することになる。仮に、習熟度別指導の実施の項目が達成できた(A)の評価であっても、次年度は、その実施目標を一段とレベルアップする必要があるかもしれない。あるいは、今年度以上に個別指導の充実を図るための特設時間等の設置が必要となるかもしれない。このように、今年度よりも一層の『成果』を生み出すために、『教育活動』や『運営活動』をどのように改善すべきかを検討することが大切である。

もちろん、『成果』として求める内容そのものについての検討も必要である。学

校教育においては、一般的に目標の抽象度が高く、評価の対象になりにくくなっていることが多いので、改善計画の作成に際しては、1年間という期限の中で、学校全体で取り組んで着実に成果を積み上げられる内容に改善していくことが望ましい。

また、教育の場で目標というと、『成果』としての児童生徒の変容の姿を意味することが多いが、組織マネジメントの考え方では、『教育活動』や『運営活動』の実施目標、達成目標等も評価の対象としての目標としてとらえていくので、この点についても、それぞれの活動について1年間で何をどこまでもっていくのか、具体目標として明確に設定できるよう改善する必要がある。

各学校は、学校評価の結果に基づいて可能な限り具体的な内容で改善計画を作成して、年度を締めくくるべきである。

そして、次年度、この改善計画に基づいて新たに目標（この場合の目標とは、次の評価の対象となる『成果』、『教育活動』、『運営活動』それぞれの具体目標を指す。）を設定し、教育計画、経営計画等を作成することになる。義務教育諸学校が作成している「我が校の教育のグランドデザイン」についても、年度末の評価を意識して、『成果』、『教育活動』、『運営活動』それぞれに、より具体的な目標を明記するようにしてもらいたい。

7 おわりに

学校評価は、学校の優劣を判定するために実施するものではなく、学校が主体性と自立性を発揮し、自らの行いを自らの手で点検・評価し、改善していくために実施するものである。しかし、閉ざされた世界での自己満足の評価、あるいは、内部の職員だけに通用する評価で終わっていたのでは、独善的な評価になってしまい、真の主体性・自立性の確立にはならない。これからの学校評価は、児童生徒はもとより、保護者や地域の人々へのアンケート等を行い、広く情報を得て評価する必要がある。また、評価情報を公表するとともに、そのことに対する意見等外部の声に謙虚に耳を傾け、改善に生かしていく柔軟な姿勢を持ち続けることが重要になる。それによって、外部に開かれ、地域から信頼される学校づくりが一層進展するよう期待している。

学校の評価システムの確立に関する調査研究 協力者会議委員名簿

(敬称略)

上越教育大学教授	古賀一博
新潟市立真砂小学校長	佐藤美智孝
新潟市立真砂小学校教諭	吉田隆
柏崎市立第一中学校長	種岡隆夫
柏崎市立第一中学校教諭	吉田淳一
新潟県立新発田高等学校長	山本英治
新潟県立新発田高等学校教諭	中野則雄

資 料

学校の評価システムの確立に関する調査研究実践校の
学校評価計画

○新潟市立真砂小学校の学校評価計画

児童へのアンケート調査用紙

○柏崎市立第一中学校の学校評価計画

保護者へのアンケート調査用紙

○新潟県立新発田高等学校の学校評価計画

教職員、学校評議員、保護者、児童生徒の
アンケート用紙

採 資

〇新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

〇新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

〇新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

〇新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

新潟県立真砂小学校の児童・教員による学校評価
 調査票回収

平成14年度 学校評価計画

新潟県立真砂小学校

1 目的

教育目標「心豊かに 共に高まる」の具現を目指し、今年度、「真砂の教育」の3つの柱を設定した。

- ・基礎学力を確実に身に付ける。－読み、書き、計算力の確実な定着－
- ・自ら問題を見つけ解決する力の育成－学びを広げる総合的な学習の時間－
- ・豊かな心を育む。－開かれた教育活動で豊かなかかわりの創造－

これらの取組について自己点検・自己評価を行い、改善を加えていこうとする姿勢をもつことなしに、子どもたちに「生きる力」を育む学校を築くことはできない。そのためにも地域・保護者の信頼を得ることのできる評価の在り方を検討し、実施していく。

2 基本的な考え方

- ◇学校改善につなげていく。
 - ・PDCAのサイクルを機能させていく。
- ◇客観的な評価を行う。
 - ・保護者、子どもの評価システムへの参画を進める。
 - ・数値化の導入を進める。
- ◇説明責任、結果責任を果たす。
 - ・年度末に学校評価（学力検査の結果も含む）の結果を保護者へ報告する。
 - ・年度当初に教育課程説明会を実施する。
- ◇自らの言葉で語る。
 - ・保護者や地域の方々にとって分かりやすい言葉で説明する。

3 評価方法

	名称・評価者	内 容	期日	担 当
1	学校評価 (職員)	教育活動全般について、全職員が4段階評定と所見で評価する。(1. 2学期末には観点を絞って7/4分を実施)	7, 12月 8, 2月検討	教頭

内部評価	2 行事毎の評価 (職員)	各行時の反省や見直し案について、記述式のアンケートを実施する。	適宜	各行事主任
	3 学力検査 (児童)	算数と国語の学力を測定する。13年-CRT 46年- 県テスト 結果を次学年の学習指導に生かす	CRT 5月 県小 2月	基礎学力部 学年
	4 児童アンケート (児童)	全児童を対象に、学習・学校生活全般の満足度や自己評価を行う。	1月実施 2月検討	教務
外部評価	5 学校経営診断 (保護者)	教育活動全般について、保護者に4段階で評価してもらう。	12月実施 2月検討	教頭 教務
	6 行事アンケート (保護者)	学校行事の見直しの際などに、その内容、方法等について意見をもらう。	適宜	教頭 教務

※学校評議員から適宜、意見聴取していく。

4 結果分析・報告

◇表れた結果の要因を探り、問題点については改善策を明らかにする。

・評価は担当者が集約し、その結果を全職員で検討する。問題点については改善策を明らかにする。

◇保護者に対し、評価の結果・考察・改善策を伝える。

・年度末に、学校経営診断、児童アンケート、学力検査の結果を、真砂通信を通して保護者に伝える。

・年度初めに、その年度の学校経営の方針及び真砂小学校の教育課程（真砂プラン）の骨子について真砂通信で伝える。

・4月下旬に「真砂プラン」説明会を実施し、直接保護者と対話する機会をもつ。

5 手順と組織

- ① 原案作成 …… 担当者(3. 評価方法の一覧参照)
- ② 評価項目等の検討 …… 運営委員会(校長、教頭、教務主任、研究主任、生活指導主任、保健主事、学年主任)

- ③ 評価の実施 …… 各自、各学年等
- ④ 集約、分析 …… 担当者
- ⑤ 検討 …… 全職員、各分掌、運営委員会等
- ⑥ 保護者への報告 …… 校長、教頭、教務主任

6 日程

学期・月	取組の内容	県協力者会議日程	
一学期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の方針明示 ・教育課程の努力事項の確認 ・「真砂プラン」説明会 	
	5月		
	7月		・第1回協力者会議7月 (2、3の観点を絞りアンケートを実施)
二学期	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票作成 ・評価項目等検討、調査票完成(運営委員会で) ・学校評価 配布、回収 ・学校経営診断 配布、回収 ・2学期末教育課程アンケート 	
	11月		
	12月		・第2回協力者会議10月
三学期	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価、学校経営診断の集約、分析(冬休み中) ・児童アンケート配布、回収、集約、分析 ・各分掌部会 ・県小テスト実施4-6年 ・全職員での学校評価の検討(2回実施) ・次年度「真砂プラン」の改善点・努力事項等の決定 ・真砂通信で結果・改善策などを保護者へ伝達 	
	2月		・第3回協力者会議1月 ・手引き原稿執筆2月
	3月		・第4回協力者会議3月
	3月		

平成14年度 学校評価計画

柏崎市立第一中学校

1 テーマ 学校への信頼を高める学校評価システムの確立

2 趣旨

小・中学校設置基準の制定により、「開かれた学校」が学校の責務となり、学校の自己点検、自己評価の実施と結果の公表、教育活動に関する情報等の積極的な提供が求められる。

このため、学校が保護者や地域の信頼に応え、連携協力して生徒の健やかな成長を図っていく一助として学校運営全般について適切に内部及び外部評価を実施し、その結果の公表並びに学校運営の改善に努めることのできるよう研究・実践を行う。

3 研究実践内容

- 評価項目や評価基準、評価体制(校内及び保護者や地域住民などによる評価体制)について
- 評価結果の公表方法や評価結果を活用した教育活動その他の学校運営の改善等について
- 参考資料を得るための県外先進地域(学校)への視察
- 学校評価システムの確立に関する手引き(ガイドライン)の作成

4 研究実践計画

(1) 評価についての基本的な考え方

学校評価は、従来は教職員がその勤務する学校について評価する内部評価が中心であった。

しかし、チャレンジ21教育推進運動やランドデザインの作成などを契機に、最近生徒や保護者、地域住民などからも意見を聴取する学校が増えている。開かれた学校運営を推進し、評価の客観性を高めるためには、外部評価を含め対象をできる限り広げることが重要である。

大切な点として、「評価したらそれで終わり」といった形骸化を防ぎ、教育活動その他の学校運営の改善につながる本来の目的をしっかり押さえること。集約事務の繁雑さや検討事項の焦点がぼけないよう必要最小限の評価項目に絞ること。年度の重点目標・重点事項などに基づいて、数値目標を用いてより具体的な評価

基準を設定して評価すること、などに留意して評価を進めていきたいと考える。

(2) 評価方法等

	評価対象	実施回数	集約担当	備 考
内 部 評 価	職 員	年2回	各校務分 掌担当	前期-夏休み中に集約、協議。2学期以降に反映。 後期-冬休み中に提出、集約。3学期に検討、協議 を行い、次年度の計画づくりに反映させる。
	生 徒	適 宜	各学年部	行事終了後や学期終了時など、必要に応じて実施。
外 部 評 価	保 護 者	年1回	学年部(担 任外)	2学期末にアンケート形式で実施。冬休み集約。
	地域住民	-	-	*地域等の代表からなる「さわやか一中推進委員」による評価で代行
	さわやか一 中推進委員	年1回	教務部	2学期末にアンケート形式で実施。冬休みに集約。
	学 区 内 小学校職員	年1回	教務部	2学期末にアンケート形式で実施。冬休みに集約。

(3) 評価の手順

- ① 評価項目、評価基準の原案の作成……教務主任が行う。
- ② 評価項目等の検討
校長、教頭、教務主任・副主任、各学年主任、生徒指導主事からなる総務委員会
が「学校評価委員会」としての機能を担い、評価項目等について検討を行い、職
員会議において協議の上、決定する。
- ③ 評価の実施 [C]
職員、生徒、保護者、さわやか一中推進委員、小学校職員にアンケート形式に
よる評価を実施する。
- ④ 評価結果の集約……冬季休業中に担当職員が集約する。
- ⑤ 評価結果に基づいた見直し・更新 [A]
3学期には、評価結果について全職員に提示し、各校務分掌部会において分
析・協議を実施する。そして、「来年度の方針・改善点」を各部会でまとめ、職
員会議において全職員で協議を行い、次年度の計画づくりの方向性を出す。
- ⑥ 評価結果の公表
各種の評価結果は、月1回発行している学校だより「真砂路」の1～3月号に
特集として掲載し、結果の公表に努める。
また、3学期の「さわやか一中推進委員会」においても更に詳細な結果の公表
及び来年度の方針・改善策などの説明を行い、委員から意見・要望等を聴取し、

計画づくりの参考にしていく。

⑦ 次年度のプラン及び評価項目・基準づくり [P]

⑤の結果をもとに、現校務分掌担当者が2月～3月にかけて次年度の目標の設定や教育活動の計画立案を行い、3月末及び4月当初の職員会議において提案する。

また、学校評価委員会において、来年度の学校運営の方針及び重点事項(案)を踏まえた評価項目・評価基準づくりに着手し、4月当初に職員に提示して共通理解を図るとともに、保護者や地域にも新年度に入っすぐ公表できるように努める。

(4) 日程

月	取組内容	担当	外部への情報提供	協力者会議
7月	・職員による中間評価の実施	全教職員	・学校だより発行 ・ホームページ(HP)の更新	7/11 第1回 ・研究内容の説明等
8月	・評価の集約 ・評価結果の提示、協議	教務主任 職員会議	・学校だより発行 ・HP更新	
9月	・2学期以降の改善点の検討 ・改善点の協議	各分掌担当者 職員会議	・学校だより発行 ・HP更新	
10月	・研究計画の作成 ・学校評価調査票の原案作成	教務主任	・学校だより発行 ・HP更新	10/22第2回 ・研究計画、調査票の検討
11月	・評価項目等の最終検討→決定	総務委員会 職員会議	・学校だより、HP ☆学校紹介パンフレットの発行	
12月	・評価の実施(生徒、保護者、さわやか一中推進委員、小学校職員、本校職員) ・評価の集約、分析—冬休み前半	全教職員 各担当者	・学校だより発行 ・ホームページ(HP)の更新 ○さわやか一中推進委員会	
1月	・各評価結果の提示—8日職員会議 ・部会による課題の明確化、改善策検討—1・2月中 ・次年度への改善点及び方針に関する協議①—24日職員会議	各担当者 各分掌部会 職員会議	・学校だより発行 “結果の公表(生徒)” ・HP更新	

月	取組内容	担当	外部への情報提供	協力者会議
2月	・次年度への改善点及び方針に関する協議②③—10、17日職員会議 ・平成15年度の一中教育の基本方針の策定 ・次年度の目標設定、教育活動の計画立案	各分掌担当者 職員会議 校長、教頭 →職員会議 各分掌部会	・学校だより発行 “結果の公表(保護者等)” ・HP更新 ○さわやか一中推進委員会	2/6 第3回 ・手引きの内容の検討
3月	・次年度の目標設定、教育活動の計画立案 ・次年度の重要計画案の提案 ・評価項目、基準の作成	各分掌部会 職員会議 総務委員会	・学校だより発行 “結果の公表(職員)” ・HP更新	3/24 第4回 ・実践及び結果公表の検討
4月	・各種教育活動の計画及び評価項目・基準の協議、共通理解 ↓ <計画に基づく実践> [D]	職員会議	・学校だより発行 “15年度の一中教育の方針” ・15年度教育課程説明会(保護者対象)	

第一中学校の教育に関するアンケート

年保護者

【評価】 A…そう思う B…どちらかというと思う C…どちらかというと思わない D…そう思わない

分野	NO	評価項目	評価				ご意見、ご提言 (ご自由にお書きください)
			A	B	C	D	
目標方針	1	グランドデザインにある教育目標や目指す生徒像、教育の重点などは、子供たちの実態や保護者、地域の願いに合ったものである。					
全体の様子	2	第一中学校は学校づくりに努力が見られ、子供や保護者にとって魅力があり、信頼できる学校である。					
	3	学校の雰囲気がよく、子供は楽しく学校生活を送っている。					
教育活動	4	少人数指導やTT(ティーチング)などを取り入れ、分かりやすい、工夫した授業が行われている。					
	5	3年の補充授業やテスト前の質問教室の実施等、基礎・基本の定着を目指しよく取り組んでいる。					
	6	様々な学校行事や生徒会活動などで、子供に豊かな心をはぐくむ活動が適切に行われている。					
	7	道徳の時間や部活動などを通して、思いやりやたくましさなどの指導が適切に行われている。					
開かれた学校	8	学校だよりなどの各種たよりや説明会、PTA等で、学校の考えや取組がよく分かる。					
	9	学校は気軽に来校しやすく、家庭や地域と連携・協力して教育を進めようとする雰囲気がある。					
教職員	10	教職員は、一人一人の子供を大切に、優しく温かく厳しく対応している。					
	11	教職員は、保護者に対して誠意をもって対応したり、相談に応じたり、信頼できる。					
その他	12	学校の施設や設備などの教育環境は、よく整えられている。					

その他、当校の教育に関して改善すべき点やご要望がございましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。結果は、3学期の学校だより「真砂路」でお知らせします。

平成14年度 学校評価計画

新潟県立新発田高等学校

1 はじめに

1 教育の大きな変革の時期にあつて、高等学校教育の改革が進められ、各学校には、豊かな心を育み、個性と創造性、意欲と活力に満ちた人づくりのための創意工夫が求められている。本校においても歴史と教育実践に裏付けされた教育に加え、二学期制、5分授業等いち早くさまざまな工夫改善を実施し、活力のある学校、保護者や地域の信頼に応えられる学校を目指して努力してきたところであるが、更に、本校の教育活動を進め、生徒たちの豊かな成長を実現していくためには、これまでの教育活動、特に、本校の教育目標、教育計画、教育活動の展開について、今まで以上の点検・見直し・評価を計画的、組織的に実施してこれからの本校の教育活動にフィードバックし、教育の改善に生かしていくことが必要になってくる。

2 実際

本校ではこれまでも行事の後や年度末に教育活動を振り返り、分掌、学年、教職員個人から意見や反省点を出し合い、次の行事や年度の活動の改善を図ることを実施していた。しかし、反省、評価が行われるのは行事が終了してからであり、年度末であり、途中で実施されることはなかった。そして、出された反省点への具体的な改善に向けての検討が十分されたことがなく、折角の反省や評価が次の行事や年度に生かされないことが多かった。また、評価者は校内の職員に限られることがほとんどであった。教育活動を主に受ける側の生徒や、委託する保護者などからの評価を求めることは少なかった。

3 学校評価

学校の評価を行う際は、次のようなことが大切である。

- ・活動の終了時ではなく、途中を含め何度か行い、活動の途中にも生かすこと。
- ・目標実現に向けての教育活動を評価するには、抽象的になりがちな目標を評価可能な実現に向けての活動まで具体化していくこと。
- ・評価のための具体的な基準をあらかじめ持つこと。
- ・生徒、保護者、地域の人々も評価に加わること。
- ・アカウンタビリティを果たし、納得と信頼される学校づくりに生かすこと。

本校の教育活動の評価を進めるために、「マネジメント手法」から発想されている「目標による管理」をベースに学校評価システムを考えたい。

「目標による管理」の学校評価システムは、「Plan(計画)」「Do(実施)」「Check(評価)」「Action(更新)」のいわゆるマネジメントサイクルが基本となり、PDCAサイクルのC(評価)を踏まえて次の計画に生かす、すなわちPDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことが学校評価システムのねらいである。

従って、このサイクルを効果的に回すためには、「Check」を次の「Plan」に確実に生かすための「Action」が求められている。

学校はその「学校の教育目標」の実現に向けて日々の教育活動を続けている。従って、学校の教育活動におけるPDCAはすべて「学校の教育目標」の実現に向けてのものである。本校もそうであるが一般に「学校の教育目標」は抽象的で、そこに示された目標がどこまで実現できたかを評価しようとしてもなかなか困難である。

そこで、「学校の教育目標」の実現のためのPDCAマネジメントサイクルを有効に働かせるためには、「学校の教育目標」をより具体的な教育活動にまでブレイクダウンしていく

ことがどうしても必要となる。

そして、教育活動をどのように進めていくか、組織・評価計画・手順・評価に必要な基準やツールの用意が必要となるが、本校では具体的に進めるための整理をしていきたい。

II 教育目標の具体化

1 教育目標

- (1) 日々創意を新たにして生活の充実向上を図ろう
- (2) 良識に従う行動によって公民としての責任を果たそう
- (3) 我が最適の道を選び資質才能を十分に発揮しよう

2 学校運営の基本的な考え方

生徒、保護者、地域の期待と信頼に応え、生徒の夢と希望を実現する責務を積極的に果たしていきたい。

そのため、職員が一体となって、生徒の進路希望の実現を支援する学校としたい。平成14年度からの完全学校週5日制、平成15年度からの新学習指導要領の施行などに合わせて時代の要請にあった学校運営ができるよう具体的な対応に積極的に取り組む。

3 本年度の重点目標

- (1) 将来を見通した教育課程の編成
- (2) 2学期制、55分授業の点検・評価と定着
- (3) 進路指導の充実
- (4) 生徒一人ひとりと密接に関わり指導できる体制の充実
- (5) 地域との連携の強化
- (6) 学習環境の整備・改善
- (7) 情報管理の徹底

4 本年度の重点目標に向けての具体的課題

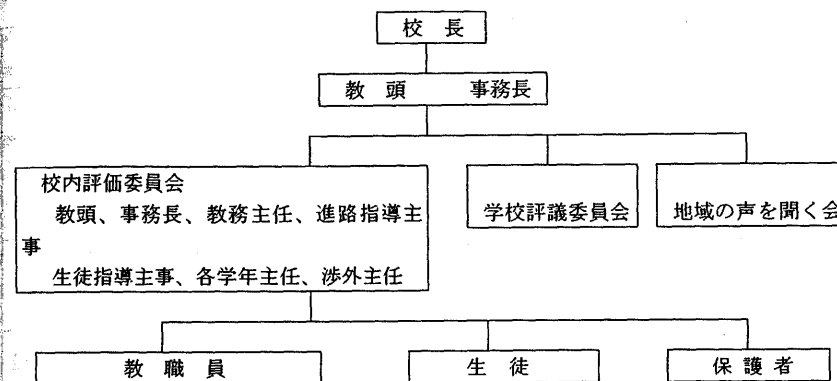
- (1) 新教育課程における「総合的な学習の時間」の立案
- (2) 授業時数の確保
1単位時間、1750分の確保
行事の精選
- (3) 基礎学力の定着のための平常時における補習と長期休業中の補習の実施
- (4) 生徒との面接時間の確保
- (5) 「学校評議委員会」と「地域の声を聞く会」の開催
- (6) 普通教室へのエアコンの設置
- (7) 生徒の個人情報の管理徹底

III 評価

1 評価組織

- (1) 校内評価委員会
校長、教頭、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、各学年主任、生徒会指導主任
渉外主任 の10名

(2) 評価の流れ



2 評価システム

【校内評価：教員】

- (1) 校長より年度当初に重点目標を提示する。
- (2) 分掌、所属学年、担当教科の観点に基づいて全職員から重点目標への具体的な取組みの提出を求める。
- (3) 提出された取組みを各部署でまとめ、職員会議で検討し、周知する。
- (4) 前期終了時点で中間まとめを行い、後期の計画修正をする。
- (5) 2月、後期のまとめを全職員が各分掌・学年・教科の観点で課題別評価を提出する。
- (6) 3月、分掌・学年・教科毎に評価をまとめて次年度に向けて課題整理をする。

【校内評価：生徒】

- (1) 重点目標をHRを通して周知する。
- (2) 後期終了時にアンケートをとる。

【校外評価】

- (1) 学校評議委員会、地域の声を聞く会、保護者に、郵送により今年度の重点目標と具体的な取組みを提示する。
- (2) 9月、2月に郵送によりアンケート形式の評価票を送る。

	評価委員会	学校評議委員会	地域の声を聞く会	生徒	保護者
4月	①重点目標の把握 ②具体的取組み作成			重点目標の提示	
5月	具体的取組のまとめ				重点目標の提示
6月		①重点目標の提示 ②具体的取組の提示	①重点目標の提示 ②具体的取組の提示		具体的取組の提示
7月					
8月					
9月	前期評価	前期評価	前期評価		前期評価
10月	①前期評価まとめ ②後期対策策定				
11月		後期対策の提示	後期対策の提示		後期対策の提示
12月					
1月					
2月	後期評価	後期評価	後期評価	評価	後期評価
3月	後期評価まとめ・課題提言				

【教職員用】

次の質問は、本校の生徒の意識、及び本校の教育についてを学校全体として見て、先生方がどのように感じているかを調べるものです。感じたままに回答してください。

回答は次の基準に従って、A～Fは1～5の該当する欄に○印をつけ、Gの欄には自分の自由な意見や感想、希望、要望等を書いてください。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ① よく当てはまる(そう思う) | ② やや当てはまる(大体そう思う) |
| ③ あまり当てはまらない | ④ まったく当てはまらない(そうは思わない) |
| ⑤ どちらとも言えない(よく分からない) | |

A 学校の様子について

質問	①	②	③	④	⑤
1 生徒は、本校に入学してよかったと思っている。					
2 赴任する前、新発田高校生は勉強を熱心に行っている学校と思っていた。					
3 生徒にとって、学校は雰囲気がよく、みんな生き生きしている。					
4 先生方は協力し合って、学習活動や行事等の学校運営に当たっている。					

B 授業について

質問	①	②	③	④	⑤
5 先生方は、生徒にわかりやすい授業を実践している。					
6 生徒は、授業運びや進度に満足している。					
7 先生方は、教材や教え方に様々な工夫をしている。					
8 生徒にとって、宿題の量は適切である。					

C 進路指導関係について

質問	①	②	③	④	⑤
9 授業が進学に対応しており、生徒は進学について安心している。					
10 進路情報で生徒に必要なものは提供されている。					
11 先生方は、進路に関して親切にアドバイスしている。					
12 進路に関して生徒との面談はよく行われている。					

D 行事・クラブについて

質問	①	②	③	④	⑤
13 学校行事(体育祭・杉原祭・球技大会等)は、生徒にとって楽しく充実している。					
14 本校の部活動は活発で、充実している。					
15 学校行事・部活動は、学習と相俟って本校の特色ある教育活動となっている。					
16 生徒は、HR活動を通して自分のクラスは楽しいと感じている。					

〔学校評議員地域者用〕

(学校評議員 地域の声)

E 生活指導について

質問	①	②	③	④	⑤
17 先生方は、生徒の悩みごとを親身になって相談にのっている。					
18 生徒は、規則など学校のきまりをおおむね理解している。					
19 生徒は、学校の生活指導(服装、遅刻、きまり等)について理解している。					
20 学校は生活指導の面で、家庭との連絡を密に行っている。					

F その他

質問	①	②	③	④	⑤
21 服装自由化に向けての試行期間を経ての経緯は納得できる。					
22 生徒の、学年計画による土曜日登校について、おおむね理解できる。					

----- 切 ----- 取 ----- 線 -----

G 新発田高校をより良くしていくための感想や意見等があれば、具体的に自由に書いてください。

1 2学期制・55分授業についての意見や考えがあれば、書いてください。

2 上記の質問1～22について、ご意見、ご感想があればお書きください。

3 学校に対する要望がありましたら書いてください。

〈該当するものに○で囲ってください〉

次の質問は、新発田高校生としての意識、及び本校の教育について、公平な立場に立って見たときに皆様方がどのようにお感じになっているかを調べるものです。感じたままに回答してください。

回答は次の基準に従ってA～Fは1～5の該当する欄に○印をつけ、Gの欄にはご自分の自由な意見や感想、要望等をお書きください。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ① よく当てはまる(そう思う) | ② やや当てはまる(大体そう思う) |
| ③ あまり当てはまらない | ④ まったく当てはまらない(そうは思わない) |
| ⑤ どちらとも言えない(よく分からない) | |

A 学校の様子について

質問	①	②	③	④	⑤
1 本校の生徒として満足した学校生活を送っているように見える。					
2 新発田高校の生徒は、勉強ばかりしていると思っている。					
3 生徒は、学校の雰囲気がよく、生き生きしている様子が伺える。					
4 先生方は協力し合って学習活動や行事等の学校運営に当たっている。					
5 地区の会合等の機会を捉えて、学校の様子を極力伝えるように努めている。					
6 本校は、進学校としての上級学校への進路に向けた体制で臨んでいる。					

B 授業について

質問	①	②	③	④	⑤
7 生徒一人一人に応じての学力向上に努めた授業を実践している。					
8 55分授業は、教科内容を充実させ、ゆとりを持たせた授業にしている。					
9 多くの先生方が、教材や教え方に様々な工夫をこらしていると聞いている。					

C 進路指導関係について

質問	①	②	③	④	⑤
10 授業補習が、進学に対応して個々の進路についてのきめ細かい指導がなされている。					
11 保護者や外部の人に、必要な進路情報が適切に提供されている。					
12 進路に関しての先生方の生徒へのアドバイスは適切に行われている。					

D 行事・特別教育活動について

質問	①	②	③	④	⑤
13 学校行事(体育祭・杉原祭・球技大会等)は、楽しく充実している。					
14 本校の部活動は活発で、充実している。					
15 学校行事・部活動は、学習と相俟って本校の特色になっている。					
16 クラスの雰囲気がよく学級活動が活発で、生徒は楽しいと感じている。					

【保護者用】

(1, 2, 3)年の保護者

〈該当するものに○で囲ってください〉

次の質問は、お子さんの意識、及び本校の教育について、保護者の方がどのように感じているかを調べるものです。感じたままに回答してください。

回答は次の基準に従ってA～Fは1～5の該当する欄に○印をつけ、Gの欄にはご自分の自由な意見、感想、要望等をお書きください。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ① よく当てはまる(そう思う) | ② やや当てはまる(大体そう思う) |
| ③ あまり当てはまらない | ④ まったく当てはまらない(そうは思わない) |
| ⑤ どちらとも言えない(よく分からない) | |

A 学校の様子について

	質 問	①	②	③	④	⑤
1	子どもを、本校に入学させてよかったと思う。					
2	新発田高校は勉強ばかりしている学校と思っていた。					
3	子どもにとって、学校は雰囲気がよく、生き生きしている。					
4	先生方は協力し合って、学習活動や行事等の学校運営に当たっている。					

B 授業について

	質 問	①	②	③	④	⑤
5	子どもにとって、内容がわかりやすい授業が多い。					
6	子どもにとって、授業進度が適切である。					
7	宿題の量が多くて大変だと思っている。					
8	子どもから多くの先生は教材や教え方に様々な工夫をしていると聞いている。					

C 進路指導関係について

	質 問	①	②	③	④	⑤
9	授業、補習が進学に対応して、親として子どもの進路について安心できる。					
10	子ども一人一人に必要な進路情報が適切に提供されている。					
11	進路に関しての先生方のアドバイスは適切である。					
12	進路に関して学校と保護者との連絡は密である。					

D 行事・特別活動について

	質 問	①	②	③	④	⑤
13	学校行事(体育祭・杉原祭・球技大会等)は、子どもにとって楽しく充実している。					
14	本校の部活動は活発で、充実している。					
15	学校行事・部活動は、本校の特色になっている。					
16	子どもは、学級活動が活発で、自分のクラスは楽しいと感じている。					

E 生活指導について

	質 問	①	②	③	④	⑤
17	先生は、生徒の悩みを聞き、親身になって相談ののってくれている。					
18	規則などの学校のきまりはおおむね守っている。					
19	生活指導(服装、遅刻、きまり等)は厳しく対処している。					
20	学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に行っている。					

F その他

	質 問	①	②	③	④	⑤
21	服装自由化に向けての試行期間を経ての状況調査は納得できる。					
22	生徒の、学年計画による土曜日登校についてはおおむね納得できる。					

G 新発田高校をより良くしていくための感想や意見等があれば、具体的に自由に書いてください。

1 1年を前期・後期に分けての2学期制や1時間を55分(通常50分)授業についての意見やお考えがございましたらお書きください。

2 上記の質問1～22について、ご意見、ご感想があればお書きください。

3 学校に対する要望がありましたらお書きください。

【生徒用】

(1, 2, 3)年(男、女)

〈該当するものに○で囲ってください〉

次の質問は、あなたが本校での生活においてどのような意識を持っているかを調べるものです。感じたままに回答してください。回答は次の基準に従ってA～Fは、1～5の該当する欄に○印をつけ、マークシートに記入の方法に従って数字をマークし、また、Gの欄には自由に意見や感想、要望等を書いて提出してください。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ① よく当てはまる(そう思う) | ② やや当てはまる(大体そう思う) |
| ③ あまり当てはまらない | ④ まったく当てはまらない(そうは思わない) |
| ⑤ どちらとも言えない(よく分からない) | |

A 学校の様子について

質問	①	②	③	④	⑤
1 本校に入学してよかったと思う。					
2 入学前、新発田高校は勉強ばかりしている学校と思っていた。					
3 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。					
4 先生方が協力し合って、学習活動や行事等の学校運営に当たっている。					

B 授業について

質問	①	②	③	④	⑤
5 内容がわかりやすい授業が多い。					
6 授業進度が適切で満足している。					
7 宿題は量が多くて大変である。					
8 多くの先生は教材や教え方に様々な工夫をしている。					

C 進路指導関係について

質問	①	②	③	④	⑤
9 授業、補習は進学に対応しており、進路について安心していられる。					
10 進路に関する必要な情報は適宜提供されている。					
11 進路に関しての先生からのアドバイスは適切である。					
12 進路に関して先生との面接はよく行っている。					

D 行事・特別活動について

質問	①	②	③	④	⑤
13 学校行事(体育祭・杉原祭・球技大会等)は、楽しく充実している。					
14 部活動は活発で、充実している。					
15 学校行事・部活動は、本校の特色になっている。					
16 HR活動が活発で、自分のクラスは楽しい。					

E 生活指導・保健衛生について

質問	①	②	③	④	⑤
17 先生は、子どもの悩みを聞き、親身になって相談のつてくれている。					
18 規則などの学校のきまりはおおむね納得できる。					
19 生活指導(服装、遅刻、きまり等)は厳しい。					
20 学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に行っている。					

F その他

質問	①	②	③	④	⑤
21 服装自由化に向けての試行期間を経ての状況調査は納得できる。					
22 子どもの土曜日登校についておおむね納得できる。					

-----切-----取-----線-----

G 新発田高校をより良くしていくための感想や意見等があれば、具体的に自由に書いてください。

1 2学期制、55分授業についての感想・意見やお考えがあれば、お書きください。

2 上記の質問1～22について、ご意見、ご感想があればお書きください。

3 学校に対する要望がありましたら書いてください。

E 生活指導・保健関係について

質 問		①	②	③	④	⑤
17	学校は生徒の悩みごとを聞き、それらの相談にのれる体制ができています。					
18	規則などの学校のきまりについてはおおむね納得できる。					
19	生活指導について、先生方の指導は納得できる。					
20	学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に行っている。					

F その他

質 問		①	②	③	④	⑤
21	服装自由化に向けての試行について納得できる。					
22	学年計画における土曜日登校についておおむね納得できる。					

----- 切 ----- 取 ----- 線 -----

G 新発田高校をより良くしていくための感想や意見等があれば、具体的に自由に書いてください。

1 2学期制、55分授業についての感想や意見があれば、書いてください。

2 上記の質問1～22について、意見や考えがあれば書いてください。

3 学校に対する要望がありましたら書いてください。

